



佐々木小

「挨拶」(あいさつ)

校長 齋藤 博敏

あけまして おめでとうございます。

本年も、子どもたちはもちろん、保護者や地域の皆様、そして、私たち教職員を含め、佐々木小学校にかかわるすべての人たちにとって、幸多き一年になりますよう、心からお祈り申し上げます。



新年の挨拶ですが、若い頃、一緒に学年を組んだ国語に優れた先生から、「新年あけましておめでとうございます」は、間違った使い方だということを教えていただきました。「『あけまして』」というのは、『年が明けて』つまり『新しい年になって』という意味がある。だから、『新年あけまして』だと、『新しい年が新しい年になって』とおかしいことになる。『あけましておめでとう』でよい。『新年』を付けたかったら、『新年おめでとう』というのが正しい。学校の先生なら、正しい日本語を使わなくてはいけない

それ以降、新年の挨拶をするたびに、このことを思い出しては気を付けています。

ところで「挨拶」といえば、2学期末の学校評価アンケートの結果が気になっています。「進んで(お子さんは)挨拶していますか」「家庭で進んで挨拶を交わしていますか」の二つの項目について、「できている・だいたいできている」という肯定的評価の数値を表したものが右の表です。

子どもたちは、「進んでしている」と思っているのですが、保護者評価では、肯定的評価ができない方が26.9%もいます。数値も若干下がっています。「家族で挨拶を交わしている」の保護者評価も下がっています。

進んで(お子さんは)挨拶している		
評価者	12月	7月比
児童	95.8%	+1.5%
保護者	73.1%	-1.9%
家庭で進んで挨拶を交わしている		
評価者	12月	7月比
保護者	88.2%	-2.2%

「挨拶」とは、もともと僧侶が向かい合って禅問答することを指していました(一挨拶)。今では、人とコミュニケーションをとる際のきっかけや感謝や親愛の気持ちを表す際に使われるようになりました。挨拶は、私たちが他者との関わりをもととする際に欠かせない行為です。世界中どの国に行っても、挨拶の習慣が根付いています。「おはようございます」「さようなら」「ありがとう」等、たった一言の挨拶があるだけで、お互いの距離がグッと縮まります。そして、そこに温かさや優しさ、心地よさが生まれます。

社会では、地域でも職場でも、挨拶や返事ができない人は、周囲の人によそよそしい印象を与えています。私たち大人には、子どもたちが挨拶できるよう育てていく責任があると思います。そのためには、「率先垂範」まずは、子どもたちの身近にいる私たち大人が積極的に挨拶を交わすことを大切にしませんか。